

聖書：使徒3：1～10

説教題：キリストの名によって歩け

日時：2013年6月16日

使徒の働き3章、「美しの門」における足のなえた人の癒しの記事。これは単に癒しの出来事を記すことが目的ではありません。このみわざの結果、大勢の人々が集まり、次回見るようにペテロがその人々に向かって説教します。そしてその様子を見ていた祭司や宮の守衛長、サドカイ人たちは黙っていられなくなって、ペテロとヨハネを捕らえ、留置します。そして翌朝、ユダヤの最高議会サンヘドリンのメンバーの前で尋問し、迫害するというのがこの後4章、5章と記されて行きます。このようにペンテコステの日に聖霊の豊かな祝福を受けた教会は、何事もなく平和な日々を過ごしていたのではなく、さっそく嵐へ突入するのです。他にも問題は色々起こります。ある人は1章2章は聖霊が主役だったが、3章からはしばらく悪魔の活動が中心的に記されていると言います。それほどに問題が次々と教会に降りかかるのです。しかし、そのような中でも教会は聖霊に導かれ、宣教の使命を果たすことにおいて見事に前進して行ったということが示されて行くのです。

そのきっかけとなった今日の箇所の癒しの出来事。私たちはここを読んでどんな感想を持つでしょう。ある人はここを読んで戸惑うかもしれません。イエス様がこのようなみわざをしたというならまだ分かる。イエス様は神ご自身であられ、別格であって、不思議ではない。しかし弟子であるペテロやヨハネまでが同じようなことをしたという話は、すぐには受け入れられない。私たちと同じ人間である彼らに本当にこのようなことができたのだろうか、と。しかしこれは私たちに重要なことを語っています。すなわち私たちはイエス様が天に上られたからと言って、私たちの視界から消してしまってはならないということです。ここにはイエス様が天から働きを継続しておられることが示されているのです。ペテロはこのみわざを行なわれたのはイエス様であることを強調しています。6節：「イエス・キリストの名によって歩きなさい。」16節：「このイエスの御名が…この人を強くしたのです。」4章10節：「この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、…イエス・キリストによるのです。」1章1節で見ましたが、ルカがこの使徒の働きにおいて書こうとしていることは、イエス様が引き続いてなされるみわざについてです。ですからこの使徒の働きの主役は引き続きイエス様なのです。ただイエス様は今や地上には見える形ではおらず、天から聖霊を遣わしてご自身の御業を進めておられるという点で、以前とは方式が変わっているだけなのです。

ではイエス様は今日も天から奇跡を行ないながら働いておられるのでしょうか。もちろんイエス様がそれをよしとするなら、それをなさることもできます。しかし私たちはこの特殊な時代状況も考慮しなければなりません。2章43節に「使徒たちによって多くの不思議と行なわれた」とありました。イエス様は使徒たちを立て、ご自身が天に上られた後、御心を正しく宣べ伝える特別な使命を彼らに与えられましたが、その彼らのメッセージをバックアップするため、奇跡を行なう力を彼らに与えられました。しかし今日、使徒と呼ばれる人たちはいません。彼らのメッセージは今や新約聖書の文書にしっかりまとめられています。つまり聖書の正典が完結した今日、もう奇跡は必要ないのです。私たちは奇跡を通してではなく、聖書

に聞くことを通して十分に神の御心を知り、神に従うことができるからです。

では私たちが今日の記事から学び取るべきことは何でしょうか。いやしの御業すべてに共通して言えることですが、聖書が示していることは、肉体の癒しは、より深い人間の魂の救いとセットで考えられるべきであるということです。魂に関することは私たちの目に良く見えませんが、肉体の癒しは私たちの目に良く見えます。その目に見える外側の変化を通して、目に見えない内側においても神のみわざが起こっていることを癒しの出来事は指し示すのです。イエス様が伝えた神の国の福音はまさにそういうものでした。イエス様は様々な病の人を癒されましたが、そこには肉体の救いにも現れ出るような魂の救いの世界が、イエス様において到来しているということが示されていました。

なぜ私たちの住む世界には病があるのでしょうか。創世記1章31節に、神が全世界を造られた時、「見よ、それは非常に良かった」と記されているように、最初の世界に悪いものは何もありませんでした。病もありませんでした。すべてのものが美しく、輝いて調和していました。しかしその世界に変化が生じたのは、人間の罪ゆえであると聖書は説明しています。その結果、土地はイバラとアザミを生じ、人は額に汗して働かなければ糧を得られなくなり、女は苦しんで出産しなければならなくなった。本来はなかった様々な苦しみ、罪の呪いとして入って来たのです。もちろん今日の個所で足のなえた人がこのように生まれついたのは、彼自身の特別な罪のせいではなかったでしょう。イエス様はそういう考えを、ヨハネ9章3節ではつきり否定されました。誰かが苦しい状況に陥った時、それはその人の隠れた罪への罰だと短絡的に見る見方を聖書は支持しません。しかし私たちの人生に様々な苦しみがあるのは、罪の結果であるというのは聖書が言っていることです。

この病にある人の姿は、罪の力の下にある私たちの状態を描いている絵です。自由でない。本来の姿でない。苦しく、心地よくない。ところがそういう束縛の中にあつた彼が、ここでその状態から解放されています。これが示していることは、この人の根本にあつた罪の問題が解決されたということです。だからその結果である病も解決された。私たちはこのことこそをこの箇所を通して考えなくてはなりません。イエス様が行なっておられたのは、単なる癒しの宣教ではないのです。それはより深い罪の解決とセットで行なわれたことだったのでした。

イエス様がこのような祝福をもたらすことができるのは、イエス様が私たちの代わりに十字架について、罪から解放するための代価をすべて払ってくださったからです。神であるお方が人となって払ってくださった犠牲はあまりにも大きいので、イエス様は今や、ご自分が望む人どんな人でも、またどれだけ多くの人々をも救い出すことができます。イエス様はそのようなお方として今や天に上り、この世界の全権を握っておられて、その力を自由に発揮できるのです。この方こそ神が私たちに与えてくださったキリスト、唯一の望みなるお方です。

では私たちは、以上のことを踏まえて、どのような望みを今日の箇所から頂くことができるのでしょうか。肉体的な癒しは、より深い魂の救いとセットであることを私たちは見て来ました。癒しのみわざはより大きなリアリティーがあることを示しています。しかしそのあまり、私たちはキリスト教を内面的なものにだけ閉じ込めてしまわないようにも注意しなくてはなりません。キリスト教の救いは心だけではなく、体にも関係します。罪の問題が解決することによって、肉体においても神の祝福が回復されるのです。これは私たちに素晴らしい見通しを与え

る福音ではないでしょう。私たちは皆それぞれ、様々な体の弱さや悩みを覚えています。気持ちには若いつもりでいても、体のあちこちにガタが来ます。以前のように体が動かなくなり、走ると足が絡まって転ぶ。腰が痛くなり、ひざが痛くなり、肩も上がらない。目はしょぼしょぼ、耳も遠くなり、口も回らず、堅いものが食べられなくなる…。そしてもう治療によっては取り戻すことができない健康状態に置かれることもあるでしょう。しかしここに素晴らしい福音があります。キリストが下さる祝福は心だけでなく、体にも関係するのです。私たちそれぞれが今持っている体の悩みについても、やがてすべて解決される日が来るのです。イザヤ 35章 5～6 節：「そのとき、目の見えない者の目は開き、耳の聞こえない者の耳はあく。そのとき、足のなえた者は鹿のようにとびはね、口のきけない者の舌は喜び歌う。」まさにこの祝福が今日の箇所で見られました。しかしこの祝福が究極的に成就するのは、罪の痕跡も完全に拭い取られる天においてです。私たちはやがてそのような祝福を頂くことができます。これは何という慰め、何という望み、また何という福音でしょうか。

またこのメシヤが与えてくださる力と祝福は、私たちの想像を超えるものです。今日の箇所に出て来た足のなえた人は、生まれつきその状態にあった人でした。4章 22 節から、40 歳余りだったことも分かります。つまり 40 年以上歩いたことがなかった人が、ペテロの言葉を受けて、たちまち足とくるぶしが強くなりました。そして躍り上がってまっすぐに立った！長い間歩いたことがない人はそうできないものです。長い間、入院した後もそうです。以前の宇宙飛行士たちは地球に戻って来ると、しばらく筋肉を使っていなかったため、記者会見中に倒れてしまうこともありました。しかし今日の箇所に出て来た彼は力強く、躍り上がってまっすぐ立ちました。そして歩き回り、さらにピョンピョンとジャンプした。人間の想像をはるかに超える力です。実にイエス様はそのような私たちの考えには収まらない、とてつもない祝福を私たちに与えてくださるのです。

そしてもう一つ注目したいのは、イエス様の祝福は直ちに与えられたことです。この人の場合は肉体にもすぐ癒しが与えられました。しかしこれは最終的な祝福ではありません。なぜならこの人も後には死んだからです。ですから肉体に現れる本当の祝福は、天国においてこそ成就するものであることが分かります。しかしこの人はここで、イエス様がくださる救いに真実にあずかりました。ヨハネ 5 章 24 節：「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばぎに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」 私たちは今ここにある時から、イエス様のいのちの祝福に生かされることができます。確かにその救いを頂いた後でも、地上の生活で思う通りに行かないこと、悲しむこともあるでしょう。しかし、聖書はそれらはすべて私たちの益になるものとして残されていると言っています。たとえ苦しいことであっても、そこからは罪の呪いの要素は一切取り去られており、すべてが私の祝福につながっているというイエス様による救いの祝福の中を歩むように私たちは導かれています。

イエス様はこの箇所を通して、私たち一人一人をこのご自身の祝福へ招いています。ペテロは足のなえた人に「私たちを見なさい」と言いました。おそらく彼は下を向いていたのでしょう。ただ投げ入れてくれるお金だけに目をやっていたのでしょう。しかしペテロはこれから行なわれるみわざに注目させるために、期待の目を上げるようにと導きます。そしてまず「金銀

は私にはない」と言います。確かに彼はそれほどのお金を持ってはいなかったのでしょう。しかし、ペテロが言いたいことは、金銀よりももっと素晴らしい祝福があなたには授けられるということです。その金銀に勝る祝福こそ、私たちも最も必要としているものではないでしょうか。私たちも様々な困難や苦しみの中にあって下を向いているかもしれません。どうしようもない状況、惨めな状況、望みがない状態、絶望の中にあるかもしれません。しかしそんな私たちにイエス様は今も語ってくださいます。自分の力では立ち上がれない私たちにまさかの言葉をかけてくださる。「ナザレのイエス・キリストの名によって、立って、歩きなさい！」私たちはこれにどう応答すべきでしょうか。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」(16章31節) 私たちはイエス様が今日、私たちにこう語りかけてくださっていることに感謝し、信じます！と告白し、その祝福の力に生かされたいと思います。そして私たちの思いをはるかに超える力と恵みを注いで頂いて、今あるところから立ち上がり、ジャンプし、主を賛美しながら、主に従う救いの道を歩む者とならせていただきたいと思ひます。